

ゾゾ語（若柔語）の使役

宮 岸 哲 也

The Causative in Zauzou

Tetsuya MIYAGISHI

要 旨

チベット・ビルマ語派ロロ語支のゾゾ語（若柔語, Zauzou）は、中国雲南省怒江傈僳族自治州の蘭坪白族普米族自治州と瀘水県に居住する人口3000人余りの怒族・若柔人（蘭坪県怒族学会2016）の言語である。ゾゾ語には語彙的使役と統語的使役があり、統語的使役は〔*mu*³³（する）+自動詞（非対格動詞）〕, 〔動詞+*ɲu*⁵⁵（言う）〕の動詞連続だけでなく、授与動詞を用いた〔動詞+*pi*¹³（与える）〕によっても表される。そして〔動詞+*ɲu*⁵⁵〕は指示使役全般と視聴覚活動の操作使役、語彙的使役は被使役者に直接的な変化を及ぼす使役と摂食の操作使役、〔*mu*³³+自動詞〕は被使役者に直接的な変化を及ぼす使役、〔動詞+*pi*¹³〕は衣服の着脱の操作使役に用いられる。

キーワード：チベット・ビルマ語派, 操作使役, 動詞連続, 授与動詞

1 はじめに

本稿はゾゾ語¹の使役の体系的な記述を行うものである。ゾゾ語には江末と果力の両方言があり、本稿では基本的に江末方言を扱うが、果力方言の例を用いる時は、〈果力〉と記す。方言間の構文的な違いはほとんどなく、語の発音や語彙が若干異なる程度である。

2 ゾゾ語の類型的特徴

ゾゾ語は孤立語的SOV言語で、時制は動詞活用ではなく、時を表す副詞や文脈によって判断される。主語や目的語などの文法関係も基本語順により決まる。声調を持つ点でも、同じく孤立語的である中国語と一致する。一方で膠着語的な特徴も併せ持ち、語順が異なったり、有生名詞が主語と目的語のどちらにも現れたりするような場合は、文法関係を明確に示すために補助的に助詞が使われることもある。

¹ゾゾ語の用例は国際音声記号による表記する。声調の表記は数字で示し、13は低中、31は中低、33は中中、35は中高、53は高中、55は高高を表す。

3 使役構文の定義

柴谷 (1982: 273) は、使役構文とは使役状況を表す構文であるとし、使役状況とは二つの事象があって、それらの関係について次のことが当てはまる状況だと述べている。

- ア 事象 2 がもう一つの事象、つまり事象 1 が起こった時よりも後に起こっている。
 イ 事象 1 と事象 2 の関係は、事象 2 の生起が事象 1 に完全に依存していて、他の総ての条件が同一である場合にもし事象 1 が起こっていなければ事象 2 も起こっていないであろうという反事実的推論が下せる状態である (柴谷1982: 273)。

事象 1 と事象 2 の関係は所謂因果関係で、使役構文はこの関係を単一の節によって明示的に表すための言語的手段である (ウェイリー: 2006: 193)。従って、日本語の「～せる／させる」の使役形に見られるような狭い意味での使役にとどまらない。コムリー (1992: 166-171) は、使役を「語彙的使役」(「殺す」など)、「形態的使役」(「死なせる」など)、「統語的使役」(英語の make him die など) に分けている。本論では、主語 (使役者) の行為が原因になって、他の参加者が何らかの行為をしたり、状態になったりするような結果を生じさせることを表す構文を使役構文として扱い、より広い意味で捉えることにする。

4 先行研究

ゾゾ語の使役に特化した先行研究はなく、概説書において「使動態」という自動詞や形容詞を他動詞化する言語操作の例と、「希求式」という使役形式を用いた願望表現が示されているだけである。使動態として、李・李 (1993: 12) は自動詞の後に ηu^{33} をつけて他動詞化する例と形容詞の声調を変えることで他動詞化する例を示している。

$t\epsilon^{35}$ (燃える) \Rightarrow $t\epsilon^{35} \eta u^{33}$ (燃やす) $t\epsilon^{33}$ (倍の) \Rightarrow $t\epsilon^{35}$ (倍にする)

また、ゾゾ語の果力方言を記述した孫・黄・周 (2002: 86) は、動詞や形容詞の前に mu^{55} をつけた形式を使動態として示し、 mu^{55} が「する」「働く」を意味する動詞 mo^{33} から由来したのだと述べている。

ϵi^{55} (死ぬ) \Rightarrow $mu^{55} \epsilon i^{55}$ (死なせる) <果力>
 tea^{55} (酸っぱい) \Rightarrow $mu^{55} tea^{55}$ (酸っぱくする) <果力>

更に孫・黄・周 (2002: 88) は、他動詞の後に ηu^{55} がついた形式を希求式とし、(1) (2) を示している。希求式の特徴は、例文を見る限り、使役文の一種として考えられる。

- (1) ηo^{33} $lu\epsilon^{55}$ λa^{31} tho^{53} $n\epsilon^{55}$ ηu^{55} ko^{33} $lu\epsilon^{33}$ ηu^{55} . (孫・黄・周2002: 88) <果力>
 あなた 背負う 否定 可能 TOP 私 DAT 背負う 言う
 「あなたが背負えないなら、私に背負わせてください。」

(2) ηo^{33} εo^{33} kue^{55} ∂a^{31} tho^{35} ne^{55} ηu^{55} $k\omega^{33}$ $tu^{31}ti^{55}$ εo^{33} ηu^{55} .

あなた 食べる 終える 否定 可能 TOP 私 DAT 少し 食べる 言う

「君が食べきれないなら、私に食べさせてください。」(孫・黄・周2002: 89) <果力>

以上、先行研究ではゾゾ語の使役の断片的な情報しか得られないので、以下では言語類型論による使役の形式的・意味的分類に基づき、ゾゾ語の使役を見ていくことにする。

5 形式的分類

コムリー (1992:166-171) は、使役を形式的な観点から、語彙的使役と形態的使役と統語的使役に区別している。但し、孤立語的な特徴を有するゾゾ語には日本語の「せる／させる」のように動詞が語形変化し、接辞を伴うような形態的使役は存在しない。したがって、ここでは、語彙的使役と統語的使役の2つを見ていくことにする。

5.1 語彙的使役

語彙的使役としては、まず自他で形式的に全く異なる動詞を用いる場合がある。この例としては、自動詞 ei^{55} (死ぬ) に対する他動詞 sa^{53} (殺す) がある。

(3) $khyi^{31}$ $\partial\delta^{31}$ $\underline{ei^{55}}$ zo^{31} .

犬 CLS 死ぬ ASP

「犬が死んだ。」

(4) ηu^{33} γo^{53} $\underline{sa^{53}}$ εo^{33} ie^{31} . (孫・黄・周2002: 100) <果力>

あなた 鶏 殺す 食べる ASP

「あなたは鶏を絞めて食べるころだ。」

しかし、語彙的使役は自動詞の対となる他動詞だけに見られるわけではない。例えば、他動詞 εo^{33} (食べる) の使役は語彙的使役 ve^{33} (食べさせる) によって表される。

(5) $s\gamma^{33}$ ηa^{55} za^{33} $\underline{\varepsilon o^{33}}$ zo^{31} .

子供 CLS 食べる ASP

「子供が食べた。」

(6) tu^{55} $s\gamma^{33}$ ηa^{55} za^{33} $\partial\omega^{31}$ εo^{33} $\underline{ve^{33}}$ zo^{31} .

彼 子供 CLS DAT ご飯 食べさせる ASP

「彼は子供にご飯を食べさせた。」

5.2 統語的使役

先行研究 (李・李1993, 孫・黄・周2002) で示された [動詞 + ηu^{55}] と [mu^{33} + 動詞] の形式による「使動態」、及び [動詞 + ηu^{55}] の形式による「希求式」は、いずれも広い意味での使役表現として分類できる。元来、 ηu^{55} と mu^{33} はそれぞれ「言う」と「する」という意味を持つ動詞

であり、いずれも文法化が進んだことにより「使動態」或いは「希求式」を表す形式として用いられるようになった。このように他の動詞の力を借りることによって表す使役は、統語的使役に分類される。

筆者が収集したデータを見る限り、ゾゾ語の統語的使役としては、先行研究で示された〔動詞 + ηu^{55} 〕と〔 mu^{33} + 動詞〕の形式以外にも、〔動詞 + pi^{13} 〕の形式がある。 pi^{13} は本来的に「与える」を表す授与動詞である。そこで、以下では、これら3種類の統語的使役を詳しく見ていくことにする。なお、これらの3形式は、使役的な意味を担う動詞が前に来るか、後に来るかで2分類できる。〔 mu^{33} + 動詞〕は前に来る形式で、〔動詞 + ηu^{55} 〕と〔動詞 + pi^{13} 〕は、後に来る形式である。

5.2.1 [mu^{33} + 自動詞] 型

この形式は、筆者が収集した言語データを見る限り、自動詞（非対格動詞）を他動詞化する場合にしか見られない。以下の例は孫・黄・周（2002: 86）の果力方言のデータである。

ϵi^{55} (死ぬ) $\Rightarrow mu^{55} \epsilon i^{55}$ (死なせる) $l\acute{o}^{13}$ (生きる) $\Rightarrow mu^{55} l\acute{o}^{13}$ (生かす)
 $i u^{55}$ (漏れる) $\Rightarrow mu^{55} i u^{55}$ (漏らす) $t a^{53}$ (切れる) $\Rightarrow mu^{55} t a^{53}$ (切る)
 ηa^{13} (転がる) $\Rightarrow mu^{55} \eta a^{13}$ (転がす) (孫・黄・周 2002: 86) <果力>

mu^{55} は元々「する」「働く」を意味する動詞 mo^{33} から由来しており（孫・黄・周 2002: 86）、この形式は mu^{33} （する）による自動詞の他動詞化としての使役を担っている。(7)と(8)は自動詞文とこの形式による他動詞化の構文的な対比を示している。(8)において与格名詞は被使役者であり被動者でもある。

(7) $khyi^{31} \eta\acute{o}^{31} \epsilon i^{55} z\acute{o}^{31}$.
 犬 CLS 死ぬ ASP
 「犬が死んだ。」

(8) $tu^{55} khyi^{33} k\acute{o}^{33} mu^{55} \epsilon i^{55} z\acute{o}^{31}$. (孫・黄・周2002: 87) <果力>
 彼 犬 ACC する 死 ASP
 「彼は犬を死なせた。」

ところで、〔 mu^{33} (する) + 自動詞〕の形式のはじめに来る動詞 mu^{33} は、他の他動詞に置き換えることも可能である。(9)は pa^{53} （叩く）、(10)は ηa^{53} （噛む）が自動詞 ϵi^{55} （死ぬ）の前に置かれた例である。これらの例は、他動詞がはじめに来て、自動詞が次にくる動詞連続のパターンであり、前項動詞の行為結果が後項動詞によって表される。このような動詞連続は他のビルマ=チベット系言語にもよく見られる現象である。

(9) $tu^{55} \epsilon i^{33} v u^{33} s\epsilon^{33} k\acute{o}^{33} p a^{53} \epsilon i^{55} z\acute{o}^{31}$. (孫・黄・周2002: 121) <果力>
 彼 AGT 鼠 3 CLS 叩く 死ぬ ASP
 「彼は3匹の鼠を叩き殺した。」

- (10) *liu³³ ko³³ ei³³ khyi³³ ko³³ ηa⁵³ ei⁵⁵ zo³¹*. (孫・黄・周2002: 121) <果力>
 豹 CLS AGT 犬 ACC 噛む 死ぬ ASP
 「豹が犬を噛み殺した。」

従って、自動詞の前に来る動詞が mu^{33} である(8)と、それ以外の他動詞である(9)(10)の違いは、その意味において死に至らしめた行為が明示的でないか、或いは明示的で具体的であるかの違いだけである。両者は構造的に前項他動詞と後項自動詞の動詞連続により行為とその結果を表す構文であるという点で同じである。(11)(12)は、自動詞文と、その自動詞が後項自動詞となる動詞連続の文を対比させたものである。

- (11) a. *sɿ³³ ηa⁵⁵ za³³ ηa⁵⁵ me¹³ ɽu¹³*.
 子供 CLS 眠る ASP
 「子供は寝ている。」
 b. *ɽa³³ me⁵⁵ sɿ³³ ηa⁵⁵ za³³ ɽo³¹ ze³³ ηa⁵⁵ me¹³ ɽu¹³*.
 母親 子供 CLS ACC あやす 眠る ASP
 「お母さんは子供を寝かせている。」
- (12) a. *sɿ³³ ηa⁵⁵ za³³ to³⁵ zo³¹*.
 子供 CLS 眠る ASP
 「子供が起きた。」
 b. *ɽa³³ me⁵⁵ sɿ³³ ηa⁵⁵ za³³ ɽo³¹ khu³³ to³⁵ zo³¹*.
 母親 子供 CLS ACC 呼ぶ 起きる ASP
 「お母さんが子供を(呼んで)起こした。」
 c. *ɽa³³ me⁵⁵ sɿ³³ ηa⁵⁵ za³³ ɽo³¹ xe³³ to³⁵ zo³¹*.
 母親 子供 CLS ACC 引く 起きる ASP
 「お母さんが子供を(引っ張って)起こした。」

以上を纏めると[mu^{33} +動詞]型の使役は、ゾゾ語全般に見られる動詞連続構文の中でも前項動詞が原因で後項動詞が結果を表すパターンの一例で、自動詞を他動詞的な意味に変える文法形式として定着したものであると考えられる。

5.2.2 [動詞+ηu⁵⁵]型

[動詞+ηu⁵⁵]型は[mu^{33} +動詞]型の使役表現と異なり文法的な機能を果たす動詞が後に来る。[動詞+ηu⁵⁵]型のηu⁵⁵は元々「言う」という意味を持つ動詞であり、「(前項動詞の表す動作をしたり、状態になったりするように)言う」ということが文法化し使役表現として定着したものであると考えられる。

[動詞+ηu⁵⁵]型はその適用範囲が広く、まず[mu^{33} +動詞]型と同様に自動詞(非対格動詞)を他動詞化する機能を持つ。李・李(1993: 12)では自動詞の後にηu³³をつけて他動詞化する使動態の例を以下のように挙げている。これらの例は、もはや、使役者が対象に対し何かをするように口頭で指示して言ったわけではなく、高度に文法化した例である。

tse^{35} (燃える) \Rightarrow $tse^{35} \eta u^{33}$ (燃やす) ka^{55} (破れる) \Rightarrow $ka^{55} \eta u^{33}$ (破る)
 lua^{55} (動く) \Rightarrow $lua^{55} \eta u^{33}$ (動かす) λa^{35} (倒れる) \Rightarrow $\lambda a^{35} \eta u^{33}$ (倒す)

(李・李1993: 12)

その他, [動詞+ ηu^{55}]型は, 非能格動詞の自動詞と他動詞の使役化も担う。これらの使役化された動詞は, 使役者の口頭指示によるものでもあり, ηu^{55} の原義が保たれている。

- (13) a. $tu^{55} pe^{13} tei^{31} z\gamma^{33}$.
 彼 北京 行く
 「彼は北京に行く。」
 b. $\eta u^{33} xe^{31} tu^{55} \lambda o^{31} pe^{13} tei^{31} z\gamma^{33} \eta u^{55}$.
 私 AGT 彼 DAT 北京 行く 言う
 「私は彼を北京に行かせる。」
- (14) a. $tu^{55} mu^{31} pu^{53} so^{31}$.
 彼 粥 食べる
 「彼は粥を食べる。」
 b. $\eta u^{33} tu^{55} \lambda o^{31} mu^{31} pu^{53} so^{31} \eta u^{55}$.
 私 彼 DAT 粥 食べる 言う
 「私は彼に粥を食べさせる。」

以上を纏めると [動詞+ ηu^{55}]型は前項動詞の行為や状態の指示を原義とし, 文法化が進んだ結果, 使役を表すようになった形式であると言えるだろう。

5. 2. 3 [動詞+ pi^{13}]型

ゾゾ語における [動詞+ pi^{13}]型は, 使役表現としてよりも (15) の与益 (benefactive) や (16) の与害 (malefactive) の表現, 更には非意図的な事態を表す (17) の非能動 (inactive) としての意味を持ち, これらの意味を生産的に表現できる (Miyagishi 2018)。

- (15) $\eta u^{33} tu^{55} \lambda o^{31} pu^{13} tei^{31} z\gamma^{33} pi^{13}$.
 私 彼 DAT 北京 行く 与える
 「私は彼のために北京に行ってあげる。」
- (16) $tu^{55} la^{53} xe^{31} tey^{33} tu^{13} \lambda o^{31} tho^{33} no^{33} pi^{13} zo^{31}$.
 彼 石 INST 人 PL DAT 叩く 痛い 与える ASP
 「彼は石で人々を叩いた。」
- (17) $\lambda a^{31} ne^{13} \eta u^{33} s\gamma^{33} \eta a^{55} za^{33} \lambda o^{31} \lambda a^{33} zu^{33} pi^{13} to^{55} \lambda u^{35}$.
 今日 私 子供 DAT 欠伸する 与える ASP
 「今日私の子供は欠伸が出て止まらない。」

しかし、(18b) (19b) は同じく [動詞 + *pi*¹³] の形式でありながら、上述の意味ではなく使役を表している。これらの例の被使役者は、自分自身で衣服の着脱ができず、使役者が着脱の行為を担っている。これらは次節で詳しく説明する操作使役に分類されるものである。

- (18) a. *sɿ*³³ *ŋa*⁵⁵ *za*³³ *mi*³³ *va*⁵³ *ɹu*¹³.
 子供 CLS 服 着る ASP
 「子供は服を着ている。」
- b. *ɹa*³³ *mɛ*⁵⁵ *sɿ*³³ *ŋa*⁵⁵ *za*³³ *ɹɔ*³¹ *mi*³³ *va*⁵³ *pi*¹³ *ɹu*¹³.
 母親 子供 CLS DAT 服 着る 与える ASP
 「母親は子供のために服を着せている。」
- (19) a. *sɿ*³³ *ŋa*⁵⁵ *za*³³ *mi*³³ *khua*⁵³ *ɹu*¹³.
 子供 CLS 服 脱ぐ ASP
 「子供は服を脱いでいる。」
- b. *ɹa*³³ *mɛ*⁵⁵ *sɿ*³³ *ŋa*⁵⁵ *za*³³ *ɹɔ*³¹ *mi*³³ *khua*⁵³ *pi*¹³ *ɹu*¹³.
 母親 子供 CLS DAT 服 脱ぐ 与える ASP
 「母親は子供のために服を脱がせている。」

なお、果力方言では (20) の通り一般的な他動詞の使役もこの形式で表される例がある。

- (20) *ŋu*⁵⁵ *ŋɔ*³³ *ko*³³ *yo*⁵³ *sa*⁵⁵ *tsɔ*³³ *pi*³¹ *ie*³³. (孫・黄・周2002: 100) <果力>
 私 あなた DAT 鶏 殺す 食べる 与える MOD
 「私は鶏を絞めてあなたに食べさせよう。」

但し、江末方言では *tsɔ*³³ *pi*³¹ (食べる + 与える) の動詞連続は使役ではなく、(21) のように与益を表す。使役は (22) のように *tsɔ*³¹ *ŋu*⁵⁵ (食べる + 言う) の動詞連続になる。

- (21) *ɹa*³¹ *ŋɿ*³³ *ŋu*³³ *pe*³³ *tu*⁵⁵ *ɹɔ*³¹ *ɛia*³³ *xao*³³ *tsɔ*³¹ *pi*¹³ *zo*³¹.
 昨日 私達 彼 DAT 沢山 食べる 与える ASP
 「昨日私達は彼のためにたくさん食べてあげた。(彼が喜ぶから)」
- (22) *ɹa*³¹ *ŋɿ*³³ *tu*⁵⁵ *ŋu*³³ *pe*³³ *ɹɔ*³¹ *ɛia*³³ *xao*³³ *tsɔ*³¹ *ŋu*⁵⁵ *pi*¹³ *zo*³¹.
 昨日 彼 私達 DAT 沢山 食べる 言う 与える ASP
 「昨日彼は私達にたくさん食べさせてくれた。」

6 使役の構文的特徴

ゾゾ語は、主語や目的語などの文法関係が基本語順のSOVにより決まる場合と、格標識により決まる場合がある。(23) のように有生物主語と無生物目的語の組み合わせでは、格標識は必要で語順だけで格関係が示すことができる。

(23) *tu⁵⁵ tshã³³ pu¹³ ŋa³³.*

彼 紙 裁断する
「彼は紙を裁断する。」

ゾゾ語には、対・与格を表す ρ^{31} （果力方言では k^{33} ）と、動作主格、道具格、起点格を表す xe^{31} （果力方言では ei^{33} ）の格標識がある。使役構文では、無標識の名詞とこれらの格標識を伴った名詞が次の規則に従って用いられる。まず、(24) (25) の通り、使役者（主語）は、無標識か動作主格 xe^{31} で、被使役者（目的語）は、無標識か対・与格 ρ^{31} で表される。但し、使役者（主語）と被使役者（目的語）のいずれもが無標識になることはなく、少なくとも、どちらか一つは格標識を持つ。

(24) *tu⁵⁵ (xe³¹) tɿ³¹ za⁵⁵ (ρ³¹) sa⁵³ ei⁵⁵ zo³¹.*

彼 AGT 役人 ACC 殺す 死ぬ ASP
「彼は役人を殺した。」

(25) *ŋu³³ (xe³¹) tu⁵⁵ (ρ³¹) pe¹³ tɿ³¹ zɿ³³ ŋu⁵⁵.*

私 AGT 彼 DAT 北京 行く 言う
「私は彼を北京に行かせる。」

また、使役者と被使役者と被使役者の行為を受ける者の3者が、一つの使役構文に現れる場合には、使役者が動作主格、被使役者が無標識、被使役者の行為を受ける者が与・対格で表される。

(26) *ŋu³¹ xe³¹ tu⁵⁵ ŋu³³ ρ³¹ mo³⁵ pi¹³ ŋu⁵⁵.*

あなた AGT 彼 私 DAT 教える 与える 言う
「あなたは彼に私を教えさせる。」

更に、使役者が無生物である場合は、使役者が動作主格と同形の具格、被使役者が無標識で表される。

(27) *la⁵³ le³¹ xe³¹ ŋu³³ thyi³¹ ρa³⁵ zo³¹.*

石 CLS INS 私 躓く 転ぶ ASP
「石で私は躓き転んだ。(石が私を躓かせ、転ばせた)」

7 意味的分類

この節では、使役表現を形式ではなく、意味の側面から分類を行い、それぞれが使役表現の形式とどのような関係性があるのかを見ていくことにする。

7.1 強制使役と許可使役

(28a) は強制使役で、(28b) は許可使役であるが、形式的にはどちらも文末に ηu^{55} が来て同じである。

- (28) a. $\lambda a^{33} fu^{55} \lambda a^{33} xua^{31} \lambda \omega^{31} tei^{31} te^{53} tu^{31} kho^{31} v\omega^{35} pi^{13}, nu^{31} la^{55} te^{53} ne^{31} \eta u^{55}$.
 阿付 阿花 DAT 麻 塊 1 籠 入れる 与える 牛 放す 所 縛う 言う
 「阿付は阿花に一籠の麻を入れ、放牧場で（麻縄を）縛わせた。」
- b. $\lambda a^{33} ne^{31} i^{33} ne^{33} ze^{33} ku^{55} \lambda a^{33} tei^{35} \eta u^{55}$.
 NEG 縛う 終わる TOP 家 中 NEG 帰る 言う
 「縛うのが終わらなければ、家に帰らせなかった。」（李・李1993: 71）

7.2 指示使役と操作使役

柴谷（1982: 277）は、「着させる」のように被使役者に指示を出してさせる指示使役と、「着せる」のように被使役者に直接的に働きかける操作使役を区別している。ゾゾ語でも両者の形式的区別が可能な場合があり、(29a) では〔動詞 + ηu^{55} 〕型の統語的使役が指示使役を表しているのに対し、(29b) では語彙的使役が操作使役を表している。つまり、(29a) は使役者が被使役者をたくさん食べるよう促したのに対し、(29b) では、使役者がスプーンなどで被使役者の口の中に食べ物を入れたことを表している。

- (29) a. $\lambda a^{33} \eta \eta^{33} tu^{55} \eta u^{33} pe^{33} \lambda \omega^{31} eia^{33} xao^{33} \tau o^{33} \eta u^{55} pi^{13} zo^{31}$.
 昨日 彼 私達 DAT たくさん 食べる 言う 与える ASP
 「昨日彼は私たちにたくさん食べさせてくれた。」
- b. $tu^{55} s\gamma^{33} \eta a^{55} za^{33} \lambda \omega^{31} \tau o^{33} ve^{33} zo^{31}$.
 彼 子供 CLS DAT ご飯 食べさせる ASP
 「彼は子供にご飯を食べさせた。」

しかし、使役の形式と意味が必ずしも対応関係にあるわけではない。以下の例は全て操作使役であるが、(30) (31) は〔動詞 + ηu^{55} 〕型の統語的使役、(32) (33) は他動詞 + 自動詞の動詞連続、(34) (35) は〔動詞 + pi^{13} 〕型の統語的使役である。

- (30) $\lambda a^{33} me^{55} s\gamma^{33} \eta a^{55} za^{33} \lambda \omega^{31} s\gamma^{33} \eta a^{55} tsha^{55} ko^{31} no^{55} \eta u^{55} \lambda u^{13}$.
 母親 子供 CLS DAT 子供 歌 CLS 聴く 言う ASP
 「お母さんは子供に童謡を聴かせている。」
- (31) $\lambda a^{33} me^{55} s\gamma^{33} \eta a^{55} za^{33} \lambda \omega^{31} s\gamma^{33} \eta a^{55} tsha^{33} pu^{13} \eta e^{31} \eta u^{55} \lambda u^{13}$.
 母親 子供 CLS DAT 子供 本 見る 言う ASP
 「お母さんは子供に絵本を見せている。」
- (32) $\lambda a^{33} me^{55} s\gamma^{33} \eta a^{55} za^{33} \lambda \omega^{31} ze^{33} \eta a^{55} me^{13} \lambda u^{13}$.
 母親 子供 CLS ACC あやす 眠る ASP
 「お母さんは子供をあやして寝かせている。」
- (33) $\lambda a^{33} me^{55} s\gamma^{33} \eta a^{55} za^{33} \lambda \omega^{31} khu^{33} to^{35} zo^{31}$.
 母親 子供 CLS ACC 呼ぶ 起きる ASP
 「お母さんが子供を（呼んで）起こした。」

(34) $\eta a^{33} me^{55} s\gamma^{33} \eta a^{55} za^{33} \eta o^{31} mi^{33} khua^{53} pi^{13} \eta u^{13}$.

母親 子供 CLS DAT 服 脱ぐ 与える ASP
「お母さんは子供のために服を脱がせている。」

(35) $\eta a^{33} me^{55} s\gamma^{33} \eta a^{55} za^{33} \eta o^{31} mi^{33} va^{53} pi^{13} \eta u^{13}$.

母親 子供 CLS DAT 服 着る 与える ASP
「お母さんは子供のために服を着せている。」

上記の操作使役の形式的な違いは、使役行為と被使役者のそれぞれの特徴が関係しているように思われる。(30) (31) の操作使役は、視聴覚の使役行為で被使役者への身体的接触がなく、被使役者は主体的に視聴覚活動に加わることも拒否することも可能である。これらの操作使役が(29a)の指示使役と同様に「動詞+ ηu^{55} 」の形式をとるのもそのためだろう。

一方、(29b)の語彙的使役による摂食の操作使役は、被使役者への身体的接触を伴い、より直接的な使役行為である。また、使役者の使役行為と、被使役者が受ける結果が同じ時に生じる。(29b)の被使役者は自分一人では摂食できず、また自身の意志の有無に関わらず、摂食行動が強制される。(32) (33)の他動詞+自動詞の動詞連続も、被使役者の意志の有無に関わらず、使役者が強制的に行う操作使役である。使役者の使役行為と被使役者が受ける結果の間に時間的なギャップがある点では(29b)と異なる。(34) (35)の「動詞+ pi^{13} 」型の操作使役は、使役行為と被使役者のそれぞれの特徴で(29b)とよく似ている。着脱と摂食の使役行為の違いは、前者が被使役者の能動的な身体活動が伴わなくても実現が可能であるのに対し、後者は被使役者の能動的な咀嚼や飲み込みの活動なしには実現できない。

以上、ゾゾ語においては、強制使役と許可使役の間では構文的な違いは見られないこと、指示使役と操作使役の間では、指示使役が「動詞+ ηu^{55} 」の形式が用いられる一方、操作使役では様々な形式をとることが分かった。また、操作使役の間では、使役行為と被使役者の特徴によって異なる形式をとるを見た。

8 お わ り に

ここまでゾゾ語の使役について形式的・意味的分類を行った。語彙的使役は被使役者に直接的な変化を及ぼす使役や摂食の操作使役のように、被使役者に対する直接的で強い影響を及ぼす使役を表すことが分かる。これは、原因と結果が単一の語彙項目の中で結合した語彙的使役が、被使役者の状態や行為に直接影響を及ぼす直接使役になるという言語全般に見られる使役の類型的特徴(Whaley1997, ウェイラー 2006: 194-201)とも一致する。また、統語的使役の中で「 mu^{33} +自動詞(非対格動詞)」は被使役者に直接的な変化を及ぼす使役、「動詞+ ηu^{55} 」は指示使役全般と視聴覚活動の操作使役、「動詞+ pi^{13} 」は衣服の着脱の操作使役に、それぞれ使い分けられることが分かった。

今回、ゾゾ語の授与動詞による「動詞+ pi^{13} 」型の使役について、江末方言と果力方言の間で用法の違いがあることも指摘したが、今後は、果力方言のデータも補充しながら、両方言の授与動詞の使役を詳しく分析したい。そして、周辺の他言語の授与動詞の使役とも比較しながら、授与動詞による使役の類型的な研究へと発展させていきたい。

略語

ACC: 対格, AGT: 動作主, ASP: アスペクト, CLS: 類別詞, DAT: 与格/対格, INST: 道具格,
MOD: モダリティ, NEG: 否定辞, PL: 複数, TOP: 主題

追記

本稿は、平成29年度科学研究費補助金（基盤研究（c）（一般））課題番号16K02651, 研究課題「ゾゾ語（若柔語, Zauzou）授与動詞構文の記述研究－類型的特点の分析に向けて－」, 及び2019年度安田女子大学学術研究助成を受けて行った研究の成果の一部を纏めたものである。

謝辞

本稿を纏めるに当たり、雲南省民族学会怒族学専業委員会常務副会長の李紹恩先生には、ゾゾ語母語話者として沢山のゾゾ語の用例を考えていただいたことに厚くお礼を申し上げたい。

引用文献

1. Comrie, Bernard. (1981) *Language Universals and Linguistic Typology: Syntax and Morphology*, Basil Blackwell, Oxford. [コムリー, バーナード. 松本克己, 山本秀樹訳 (1992) 言語普遍性と言語類型論. ひつじ書房]
2. Miyagishi, Tetsuya (2018) 'Give' Serial Verb Constructions in Zauzou: Beyond Benefactive and Malefactive. *Proceedings of the 51st International Conference on Sino-Tibetan Languages and Linguistics*, pp. 620-625.
3. Whaley, Lindsay J. (1997) *Introduction to Typology*, Sage Publications, Inc., California. [ウェイリー, リンゼイ J. 大堀壽夫, 古賀裕章, 山泉実訳 (2006) 言語類型論入門. 岩波書店].
4. 柴谷方良. (1982) 日本語, 英語, 講座日本語学10外国語との対照I (森岡健二, 宮地裕, 寺村秀夫, 川端善明編). pp. 256-279, 明治書院, 東京.
5. 孫宏開, 黃成龍, 周毛草. (2002) 柔若語研究. 中央民族大学出版社, 北京.
6. 蘭坪県怒族学会編. (2015) 走近怒族支系若柔人. 蘭坪県怒族学会.
7. 李紹恩, 李志恩. (1993) 怒族若柔語言資料集. 雲南民族出版社, 昆明.

